

# 1年間会員の皆さん、 ご協力ありがとうございました。

PR委員会



## ☆現PR委員会☆

委員長 L. 國武 忠重  
副委員長 L. 鶴 清彦  
委員 L. 大内 義彦、L. 鹿子島慶正、  
L. 堤 秀敏

## ★次期PR委員会★

委員長 L. 田中 雅治  
副委員長 L. 原 英俊  
委員 L. 大内 義彦、L. 鹿子島慶正  
IT委員 L. 渡辺 允公、L. 藤木 猛

この「かわら版」の第一号は、平成14年7月12日号である。記事には、L. 穴見の叙勲披露あり、L. 田中雅治ご令嬢の結婚報告の記事あり、写真クラブの撮影会勧誘の記事ありと、いかにも「かわら版」らしく盛り沢山の記事で、華々しく第一号かわら版が発

行されている。あれから3年間、よくぞここまで続けてこられたものである。途中、2ヶ月合併号があったりしたが、1回も欠けることなく「かわら版」は発行された。第4号からは、紙面の写真がカラーになった。最近では、他のクラブの羨望の的になるくらい我がクラブの「かわら版」はガンバッテいる。末尾になったが、「かわら版」のレイアウトや写真等、的を得たカットは事務員さんの手腕によるところが大きい。今後とも、ご協力お願いしますよ。



平成17年  
5月27日号  
通巻第32号  
PR委員会発行

間もなく今期も終わろうとしている。

L. Cに永く在籍していると1年間同じことをして、又同じことをして年度を過ごしているように思えることがある。しかし、よく注意して年間を見ていると、執行側（五役）も代われれば、所属委員会も、委員会メンバーも代わる。そこに新しいアイデアが生まれる。マンネリ化に陥りそうで、マンネリにならない、人の交流があると組織はいつも活性化している。

「澱まぬ水は腐らない」の例えのとうりである。

クラブは典型的なほど「保守的」な集団である。どうも、「革新」という考え方がキライな人が多い。これは一長一短あるのではないかと考えられる会員もあると思う。これから若い会員さんの入会も多くなるとクラブの「伝統」というものも少しずつ変化していくだろう。よく言えば「ゼネレーション・ギャップ」が生じたとき、クラブ全体で、どのようにクリアーしていくのか、この問題はどのクラブも同じ悩みを持っているのではないかと。ここらあたりで、長期ビジョンを全員で考えてみる必要もあると思う。場当たりのでは、決していいクラブは出来ない。

犬声狛語